

彼女との12ヶ月

sin—shin

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

潮とのなんでもない1年間のお話です

目次

【潮編】

1

【大鷹編】

51

【潮編】

【1月】

潮「提督、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします」ペコリ
提督「おうよろしく」コタツヌクヌク

潮「……新年の挨拶ぐらいちゃんとしたらどうですか？」

提督「いやだつて寒いじゃん」

潮「初雪ちゃんじゃないんですから、ちゃんとコタツから出てください。怒りますよ？」

提督「ちえっ……わかつたよ」イソイソ

提督「……あけましておめでとう潮。今年もよろしくな」ペコリ

潮「はい、よろしくお願いします」ペコリ

提督「……もういい？」

潮「はあ……。もういいですよ」

提督「ふうやれやれ。……めんどくせえ嫁さんだなあ……」ボソツ

潮「何かいいましたか？」

提督「イエナニモ」

潮「はあ……。後で曙ちゃんたちと初詣に行くので支度はしといてくださいね？」

提督「やだよめんどくせえ」

潮「しといてくださいいね？」

提督「だから嫌だつて」

潮「し」といってくださいいね？」

提督「……ういつす」

潮「それじゃまた後で」

提督「あ、潮ちよつと待つて」

潮「はい？」

提督「着物、よく似合ってるぞ。惚れ直した」

潮「っ!?へ、変な事言ってるで早く支度してくださいね!!それじゃ!!」ボタン

提督「ふふ。やっぱり根っこは変わらねえなあ」

【2月】

潮「……………」

提督「……………」ツクエコンモリ

提督「……多くね？」

潮「多いですね……」

提督「俺チョコ好きだけどさあ……流石にこの量は……」

潮「でも返すわけにも行きませんよね？」

提督「そうなんだよ……」

潮「チョコレートフォンデュにでもしますか？」

提督「多分受け取った感じクツキーの方が割合高かったから無理だと思う……」

潮「じゃあどうするんですか？」

提督「赤城に……」

潮「その中赤城さんのも入ってますよね？」

提督「……腹括るか」

潮「……無理はしないでくださいね」

提督「おう……」

潮「でも……あれですね」

提督「うん？」

潮「義理チョコばかりですね」

提督「そりゃうちの艦娘の性格考えりゃ必然だろ」

潮「そう言えばそうですね。うちの金剛さんとか、loveよりもlikeですもんね」

提督「かなり特殊な例らしいぞ。あ、でも本命もいくつかあったぞ。例えば最初にくれた榛名とか」

潮「……そうですかよかったですね」

提督「なんか不機嫌だな？」

潮「別に何でもありません」

提督「……嫉妬してんのか？」ニヤリ

潮「自惚れないでください。撃ちますよ？」カチャ

提督「艤装はやめろ。マジでシヤレにならん」

潮「まったく……」

提督「からかったのは悪かったよ。でも、本当に嫉妬してないんだとかなり傷つくんだが……」

潮「……その」

提督「？」

潮「みなさんが提督にあげるのは個人の自由だからいいんですけど……」

潮「潮が最初じゃなかったんだなって思っただけです……」

提督（それを嫉妬というんだがなあ）

提督「まあ確かにお前は最初じゃなかったな。でも…」

潮「…?」

提督「ただ本命もらつても、俺は嫁さんである潮からのチョコが一番嬉しいぜ？」

潮「提督…」

提督「まあ榛名ともケツコンしてるんだけどね！」

潮「台無しです」

【3月】

提督「3月かあ…」シミジミ

潮「どうしたんですかいきなり?」

提督「いや、昔を思い出してたんだよ。ほら、今って卒業シーズンだろ?」

潮「ですね。ということは学生時代を?」

提督「うん。中学の友達とか元気にしてるかなって」

潮「連絡はとってないんですか？」

提督「そうだねー。高校入ったら疎遠になっちゃってさ」

潮「そうですか…ってあれ？提督、軍の学校出身じゃないんですか？」

※軍の学校は中高一貫という適当な設定

提督「あれ？言ってなかったっけか」

提督「俺、一般公募で採用されたんだよ」

潮「そうだったんですか。因みに以前は何をしてたんですか？」

提督「普通に大学生だったよ。2年の時に採用されてそのまま提督になった」

潮「ということは中退しちやっただんですか？」

提督「まあな。特別措置として学位は貰えたけど」

潮「そうですか…寂しくありませんでした？」

提督「何が？」

潮「その…大学の友達と別れちやっただこととか」

提督「全然。むしろ嬉しかったよ」

潮「え？どうしてですか？」

提督「だって俺友達いなかったもん」

潮「あつ…（察し）」

提督「おい、何を察した」

潮「いえ、別に何も」

提督「つたく…別に全くいなかったわけじゃないよ。数人はいたさ。でも…」

提督「俺は遠くから通つててさ。放課後とか遊べないし、サークルにも入る時間がないんだ」

潮「だから付き合いが薄かった、と」

提督「そ。付き合いが薄けりゃ別れも悲しくないしな」

潮「つまり退屈な大学生活から逃げるために提督になった、と」

提督「そうs…ちげーよ！」

潮「じゃあなんで提督になったんですか？」

提督「それは…」

潮「就職先の確保？」

提督「…違う」

潮「まさかハーレムを夢見て…」

提督「違…わないけどその頃はまだだ」

潮「……………」ケイベツノマナザシ

提督「おいやめろ。そんな目で俺を見るな」

潮「はあ…まあいいです。提督がこんななのは今に始まったことじゃないですし」

提督「お前俺をなんだと思ってるの？」

潮「サボり魔のセクハラ男」

提督「…何も言えねえ」

潮「まったく…つてもうフタヒトマルマルじゃないですか！」

提督「えっ!?!…マジだ。…今日はもう終わりでいいんじゃない？」

潮「ダメです。明日提出の書類があるんですから」

提督「はあ…めんどくせえ…」

潮「潮も手伝いますから」

提督「さすが潮さんマジ天使！」

潮「はいはい。さっさと終わらせませすよ」

—数時間後—

提督「やつと終わったー!!」ノビー

潮「日頃からやつとけばこんなにはならないんですけどね」

提督「それについてはノーコメントで」

潮「まったく…それじゃ私部屋帰りますね」

提督「おう。明日はゆっくりでいいからな」

潮「そうさせてもらいます。ではおやすみなさい」

提督「おやすみ」

扉バタン

提督「…さて俺も寝ますか」

提督「……………」

『じゃあなんで提督になったんですか？』

提督「お前に一目惚れしたから、なんて言えねえよな」フツ

【4月】

提督「飲めや歌えやどんちゃん騒ぎー…」

潮「節度は必要だと思えますけどね」

提督「いいじゃねーか花見の時くらい。たまには羽目を外すことも必要さ」

潮「…はあ」

提督「それに、こういう酒の席ではあいつらがいないと盛り上がらねーしな」

潮「確かにそれは一理ありますね。…でも提督お酒飲んでないじゃないですか」

提督「あ、気づいちゃった？」

潮「この距離でお酒臭くありませんからね」

提督「なるほどね」

潮「なんで飲まないんですか？」

提督「んー…別に飲めないわけじゃないんだけどさ、単純に美味しく感じないのよね」
潮「ビールとかはわかりますけど、カクテルとかもですか？」

提督「うん。これだったらジュースの方が美味いなーって思うんだ」

潮「男の人でお酒飲めないのって珍しいですね」

提督「ああ。だから祝いの席とかで俺だけジュースってことも結構ある」

潮「ちよつと恥ずかしいですね」クス

提督「別にいいんだよ。不味いものを無理して飲む必要なんてねーんだから。ましてや酒なら尚更な」

提督「そういう潮はどうなんだよ？」

潮「潮もあんまり得意じゃないですけど…甘いカクテルとかは美味しいと思いますよ
？」

提督「ふふっ」

潮「む、なんで笑うんですか。自分はお酒すら飲めないのに」プクー

提督「ああ悪い悪い。いやなに、潮も女の子なんだなあって思っただけさ」

潮「どういう意味ですか！」

提督「単純な話だよ。艦娘として…人として人生を謳歌してくれて嬉しいんだ」
潮「え…？」

提督「俺はさ、お前ら艦娘に人間らしい人生を送ってほしいんだ。」

提督「お前らはどこまでいっても兵器だ。それは変わらない事実だよ。でもさ…」

提督「お前らは口をきかない物じゃない。心があり、感情がある」

提督「だからさえつと…：…：ごめん、途中で訳わかんなくなっちゃった」

潮「台無しです…でも、何となく提督の言いたいことは伝わりました」

提督「そっか。そりゃよかった。」

潮「慣れないことはするもんじゃありませんね」

提督「ほんとな。俺も酔いが回ってきたか？」

潮「お酒飲んでないのにですか？」

提督「場酔いってやつかな」

潮「場酔い…」

潮「…」ピトッ

提督「んーと…潮？」

潮「なんですか？」

提督「なんでくつついてきたの？」

潮「場酔いってやつです……」ギユツ

提督「場酔いってレベルじゃ……」

潮「提督は……」

提督「？」

潮「こんな潮は、キライですか……？」ウワメツカイ

提督「……あーもう！嫌いなわけあるか！どんなお前でも大好きだよ！」ギユツ

潮「キヤー♪」ギュー

提督「つたく……今夜は寝かさねえからな？覚悟しろよ！」

潮「お手柔らかにお願いします♪」

【5月】

提督「……………」ボー

潮「提督、ぼーつとしてないで仕事してください」カリカリ

提督「うん……そうしたいのは山々なんだけど……」

提督「なんかやる気でねえんだよな……」ノビー

潮「五月病ですね、それ」

提督「やつぱりそうかい。んじゃ病気なんで早退を…」イソイツ

潮「五月病は病気じゃないですよ」ニッコリ

提督「…ダメ？」

潮「ダメです」

提督「どうしても？」

潮「はい」

提督「……………じゃあ」

提督「強行突破だな!!」ダッ

潮「甘いですよ」ポチッ

鎮守府の扉（実際にはありません）↓サイドボード

提督「ぐほあっ!!」ビターン

提督（こいつ…即座にドアの場所をダンスに切り替えやがった…）

潮「まだまだですね」フッ

提督「この野郎…」

提督「だが俺は諦めねえ！」ダッ

潮「無駄です」ポチッ

青カーテンの窓↓鉄格子の窓

提督「はがあ!!」ゴン!!

提督「痛つてええええ!!!」ゴロゴロ

提督「お前鉄格子はダメだろ!!」ゴロゴロ

潮「自業自得ですよ」カリカリ

提督「ぐう…くそう…」ガクッ

潮「早く机戻つてください」カリカリ

提督「最近俺の嫁が冷たすぎてやばい…」シクシク

潮「はあ…もう…」ガタッ

提督「…?」

テクテク ポスン

潮「ほら…こつち来ててください」ポンポン

提督「え…?」

潮「早く」

提督「お、おう…」

スタスタ ポスン

潮「ここ、頭乗せてください」トントン

提督「お、おう…」

提督（なんかよくわからんが膝枕されてる…）

潮「……すみません、鉄格子はやりすぎました」

潮「頭、痛かったですよね…」ナデナデ

提督「いや、俺が悪い。潮には何の非もないよ」

潮「でも…コブになっちゃってます…」

提督「バチが当たったんだよ。お前も言ったら？自業自得だつて」

提督「だから気にするな」

潮「でも…」

提督「ああもう！じゃああと30分ぐらい膝枕してくれ。それでお互い言いっこなしな！OK!」

潮「は、はい！」

提督「つたく…」

—約30分後—

提督「…うし、膝枕終わったし仕事再開すつか」

潮「でもまだコブが…」

提督「痛みは引いたし平気だよ。それに…」

潮「？」

提督「なんか膝枕してもらったらやる気出てきてさ。ありがとな」

潮「提督…」

潮「じゃあ…仕事終わったら、また膝枕しちゃいます!」

提督「お、そりやありがたい。ついでに耳かきもつけてくれるか?」

潮「ふふっ。はい」

提督「よしや!!さーて、やりますかね!」

提督「ところで潮の分は?」

潮「膝枕の前に終わらせました」

提督「しつかりしてんなあ…」

【6月】

ザー ザー

提督「…梅雨だなあ」

潮「梅雨ですねえ…」

提督「なんかさ、雨の日ってテンション上がらない?」

潮「いえ全く」

提督「おう即答か。：じゃあなんで嫌いなんだ？」

潮「一番はジメジメするからですね。そのせいで髪の設定に時間がかかっちゃうんです」

提督「女の人は大変だよな：って、お前ストレートじゃん」

潮「一部分がとんでもないことになるんです」

提督「：あつ、確かにアホ毛がいつもよりゼンマイに近くなってる」

潮「いつもよりってなんですか。：：：これでもかなりいいほうなんですよ？」

提督「マジか」

潮「朝起きた時はこれが5く6本に増えてますから」

提督「何それ超見たい」

潮「臙ちちゃんや曙ちゃんが黙ってませんよ」

提督「どして？」

潮「2人の方が酷い髪型になるんです。他人に見せられないレベルで」

提督「ボー口はわかるけどボノまで？」

潮「ええ。まあ梅雨の時だけですけどね。普通の雨の時はそんなことならないんです」

提督「ふーん。まあ朝っぱらから暴力はゴメンだし、諦めるかね」

潮「そうしてください。…そういう提督はなんで雨が好きなんですか？」

提督「俺か？昔は部活が休みになったりするから好きだったんだ」

提督「でも今は皆が出撃しなくて済むから、かな」

潮「提督失格ですなそれ」

提督「まーな。でもま、お前らが危険な目に遭わなきやそれでいいよ」

潮「ふふつ。優しいですね」

提督「お、なんだ？惚れ直したか？」

潮「いえ全く」

提督「ちえつ。なんだよ」

潮「…話はちよつと変わりますが、提督は雨に打たれるのは好きですか？」

提督「なんだその質問は」

潮「いいから答えてください」

提督「…ちよつと変かもしれんが、シャワー浴びてる感あつてまあまあ好きだぞ」

潮「そうですか…では提督、窓の外を見てください」

提督「は…？外つて…」

イイアメダネ　ポイー！　　イッチバーン！

提督「あいつらまたやってんのかよ!？」

潮「ということであとは任せました」

提督「いやお前も来いよ!？」

潮「雨に打たれるのは嫌なんで」

提督「あーもう!じゃあ鳳翔に替えの服頼んどけ!」ダツ

潮「行つてらつしやいです」フリフリ

提督「ちきしよー!」ドタドタドタ

潮「相変わらず騒々しいなあ…」

潮「……」

『お前らが危険な目に遭わなきやそれでいいよ』

潮「提督失格。でも、旦那様としては十分すぎです」ニコ

オマエラナカハイレー! キヤー! ポーイ!

潮「さてと……あ、鳳翔さんですか?ちよつと替えの服を……」

〔7月〕

提督「おー…」

潮「すつごく綺麗ですね…」

提督「夜は雨だって言ってたのになあ」

潮「雲ひとつない綺麗な夜空ですね」

提督「まあ今回は外れてくれて良かったな。おかげでこんなに綺麗な天の川が見れたんだから」

潮「そうですね…」

提督「しつかり七夕ねえ…」

潮「織姫と彦星が一年に一度会える日、ですね」

潮「今頃天の川の上で再会してるんでしょうか…」

提督「かもな。…なあ潮？」

潮「はい？」

提督「もし恋人と一年に一度しか会えなかったらその日はどうする？」

潮「ベタな質問ですね」

提督「いいだろ別に。で、どうなんだよ？」

潮「うーん…とにかくその日を目一杯楽しみますね」

提督「具体的には？」

潮「まあ、デートして、一緒にご飯食べて、一緒に寝る…感じですかね」

提督「なんというか、ありきたりな答えだな」

潮「む。なら提督はどうなんですか？」

提督「俺か？まあ一日中セック〇だろうな」

潮「最低です」

提督「いやいや、俺かなり真面目に答えてるぜ？」

潮「そのどっこが真面目なんですか」

提督「考えてもみろよ。一年中浮気もできず、相手の声を聞くことすらできないんだぜ？」

提督「そんな2人が会うんだもの。肉体的接触で1日終わんだろ」

潮「ぐっ……一概にないとは言いきれない……」

提督「……まあ、昔ならともかく現代ならSNSがあるしそんなことにはならんとは思うけどな」

潮「そ、それもそうですね！じゃあはい！この話はこれでおしまいということでは！」

提督「お前……」

潮「はいおしまい！別の話しましょ！」

提督「はあ……まあいいけどさ。じゃあ潮、七夕で思い出したんだが」

潮「何でしょう？」

提督「短冊、もう書いたか？」

潮 「え？あー…そういうえげままだですね…」

提督 「んじやちようど良かった。俺もまだだし、今から一緒に書きに行こうぜ」
潮 「いいですね。行きましょう」

提督 「んーと、よし書けた」

潮 「潮も書けました」

提督 「しっかしこうして見ると色々願いたい事あるなー」

潮 「本当ですね。あ、これ清霜ちゃんのだ」

『戦艦になりたい！ 清霜』

提督 「安定だな。お、こっちは長門だ」

『航海安全 長門』

潮 「長門さんらしいですね」クス

提督 「本当だな。ん…これ大井つちか？」

『北上さん C・P・L』

潮 「まあ、そうでしょうね…」

提督 「本当にあいつはブレないなあ…ってかもう手に入ってたんだろ」

潮「あはは……。あれ？これは……誰のでしょう？」

『バニースーツ 昇竜拳』

提督「んー……。あ、俺わかった」

潮「ほんとですか？」

提督「うん。まあ本人の為に言わないけど」

潮「気になりますけど……仕方ないですね」

提督（淀ちゃん……。やっぱり欲しかったのね）

提督「……。ん？なんかここ密集してるな」

潮「本当ですね。全部裏返って……」ピラ

『胸部装甲 RJ』

『胸部装甲 ズイズイ』

『胸部装甲 玉子』

『胸部装甲 タウイ』

『胸部装甲 ミサト』

提督「……………」

潮「……………」

提督「……………短冊飾るか」

潮「……………そうですね」

提督「これでよし、と」

潮「潮も終わりました」

提督「うし、んじや中戻るか」

潮「そうですね」

提督「…そういや潮はどんな願い事書いたんだ？」

潮「『みんな無事でいられますように』って書きましたよ。提督は？」

提督「俺も似たようなもんだな」

潮「珍しいですね。提督が欲望に忠実じゃないなんて」

提督「どういう意味だよ」

潮「そのまんまですよ。セクハラスケベ提督」

提督「こいつ、言ったなー！」

潮「きゃー♪助けてー♪」

提督「待てコラー！」

『みんな無事でいられますように 潮』

『みんなが笑っていられますように 提督』

ピラ

『提督のそばにずっといられますように』

『潮のそばにずっといられますように』

【8月】

ザザーン… ザザーン…

提督「……………」ボー

潮「大変そうですね」ストン

提督「そう思うなら代わってくれよ」

潮「嫌です。じゃんけんで負けたんですから文句言わないでください」

提督「ちえつ。こんなことなら負けたやつが交代制にしなきゃよかった」

潮「自分でルール設定してたじゃないですか」

提督「うるせえ！まさか俺の一人負けになるとは思わなかったんだよ！」

潮「ものすごい逆ギレ…」

提督「はあ……」

潮「不幸艦の皆さんが参加してれば結果は違ったかもしれないけどね」

提督「まあそうだろうな」

潮「提督はその辺しっかりしてますよね」

提督「ん……そんな事ねーよ。単純にほぼ確定した未来なんて面白くねーと思ってるだけだ」

提督「人生何があるかわからない……だから面白い……だろ？」

潮「ジャンポケさんですか」

提督「おっ、よく分かったな」

潮「だって提督、よく動画見ながら寝落ちしてますから」

提督「ああ……。ってか、お前いつまでいんだ？早く遊び行つてこいよ」

潮「あら、お邪魔でしたか？」

提督「んなことないけどよ。七駆のみんなと遊ばなくていいのか？」

潮「遊んできましたよ？ただ潮は疲れたので休憩しにきただけです」

提督「そか……。……はあ。俺もみんなと遊びたかったな」

潮「それは……まあ、ご愁傷様です。……因みにどんな遊びを？」

提督「高雄の胸にわざとボール当てたり、むっちゃんに日焼け止め塗ったり……」

潮「クソみたいな欲望丸出しじゃないですか」

提督「うっせ。男のロマンなんだよ」

潮「はあ…未然に防げて本当によかった」

提督「まあいいけどさ…ところで潮？」

潮「なんですか？」

提督「蜃気楼かな？俺、あそこで赤城がバカ食いしてるように見えるんだが…」

潮「…奇遇ですね。私もついさつき気づきました」

提督「…行くか」

潮「そうですね…」

コラアカギイー!! アカギサン!!

【9月】

提督「お、きたきた」

潮「遅れてすみません！待ちましたよね…？」ハアハア

提督「うんにゃ、俺も今来たところだよ」

提督（1時間前まで約束を忘れてたことは黙っところ）

潮「そ、そうでしたか…」

提督「それに遅れたっていつても五分ぐらいじゃん。事前に連絡もしてくれまし

潮『すみません提督、少しか遅れそうです!』

提督『ん?……!そ、そうか。焦らずゆっくり来いよ』

潮「それでも遅れたことは事実ですから」

提督「堅いなあ。まあいいけどさ。んじや行こうぜ」カランコロソ

潮「あ、ちよつと待つてください!」ガシツ

提督「あん?」

潮「……手」

提督「ああ……はいよつと」ギユツ

潮「えへへ……それじゃ行きましょつか!」

提督「ああ」

提督「とりあえずは腹ごしらえか」

潮「そうですね。何から行きますか?」

提督「うーん……まあ適当に回ろうぜ」

潮「了解！」

潮「提督、齒に青のり付いてますよ」クスクス

提督「そういうお前こそついてんぞ」

潮「え、どこですか？」

提督「そつちじゃなくて…ああもう。こつちだよ」フキフキ

潮「んっ…あ、ありがとうございます」

提督「気にすんな」

潮「あ、じゃあお返しに提督のもとつてあげます」

提督「勘弁してくれ」

潮「はむっ…んん…」

提督「……」

潮「んん…あつヶチャップが…」

潮「……？提督、どうしたんですか？」

提督「いや、何でもない。」

潮「そうですか…？」

提督（わざとなのか…果たして…）

潮「はあ…もうおなかいっぱいです」

提督「花火の時間までまだあるけど、どうする？」

潮「あ、じゃあ屋台見て回りましょうよ！」

提督「OK。んじゃ行くか」

潮「ああ…またポイが…」

提督「俺も一匹で破れちゃった」

潮「こんな時夕立ちちゃんがいればなあ」

提督「あいつ上手いの？」

潮「それはもう。『ポイポイポイポイ！』って言いながら取りまくりますよ」

提督「そりやすげえな」

潮「なんでも、これを言いたいがために練習しまくったらしいですよ」

提督「だっちゃん…」

潮「できれば、離脱してください！」 パンツ ビシツ

提督「さすがに射的はお手の物か」

潮「毎日やってますからね」パンツ　　ピシッ

提督「うっしなら俺も」

提督「第二次攻撃隊、全機発艦！」パンツ　　ピシッ

潮「砲撃じゃない…」

提督「そろそろ時間だし、移動しようぜ」

潮「本当ですね。行きましょっか！」

提督「お、やっぱり誰もいねーな」

潮「こんなところあつたんですね」

提督「穴場なんだよここ。誰にも言うなよ？」

潮「もちろんです！」

提督「ありがとな。そう言えば今年なんか面白い花火も打ち上がるらしいぞ」

潮「面白い花火？」

提督「キララクターの顔とかメッセージつきのやつとかだよ」

潮「へー…」

提督「おっ！ 始まったぞ」

ヒューーーーー・・・・・ドオン!!

提督「おおー……」

潮「ふわああ綺麗……」

提督（お前の方が綺麗だよ、なんてな）

潮「花火ってなんであんなに色鮮やかなんでしょうね……」ドオン!!

提督「あれは火薬だかなんだかの炎色反応で色変えてるらしいぞ」

潮「へー……」

提督「あと関係ないけど花火って直径300メートルぐらいの爆発らしいぞ」ドオン

!!

潮「へー……提督物知りですね」

提督「そんなことねえよ。今ググったからな」

潮「それは言わないで欲しかったです」

提督「あはは。おっ！ そろそろ面白花火が打ち上がるぞ」

ヒューーーーー・・・・・ドオン!!

提督「ドラえもんにミッキーにピカチュウ……定番だな」

潮「本当ですね……あっ！ メッセージつきのもあります！」

提督「本当だな。『ありがとう』か…」

潮「誰に向けてのものなんでしょうね」フフ

提督「さあな。お、まだくるか…ジバニヤンにマリオに瑞雲…瑞雲!?」

潮「まだ来ましたよ…瑞雲12型、試製晴嵐、瑞雲六三一空…」

提督「…帰ったら質問攻めだな」

潮「ええ」

ヒューーーー…

ド まあ、そうなるな ン!!

提督「やかましいわ!」

提督「なんか最後にどつと疲れたな…」

潮「そうですね…」

提督「今日はさっさと帰って明日に備えようぜ…」

潮「賛成です…」

提督「あ、そうだ」

潮「まだ何かありました?」

提督「浴衣、すげー似合ってる。可愛いよ」

潮「今更なんですネ…でも、ありがとうございます！」

提督「最初に言おうと思ったんだけど言いそびれちゃってな」アハハ
潮「もう…まあ気づいたのでよしとします！」

提督「そりやありがたい。さーて、明日からまた仕事だ！」

潮「頑張りましょう！」

【10月】

提督「今年は何の仮装にしようかな〜♪」ウキウキ

潮「ハロウィンもいいですけどちゃんと仕事してくださいよ？」

提督「もう終わらせたよ」

潮「もう…こういう時は早いんだから…」

提督「祭りごとはやる前に面倒を片付けとかないとな」

潮「毎日それだと助かるんですけど」

提督「それは無理な相談だ…：おっ、これとかいいな」

潮「な、なんですかそれ？」

提督「サイレントヒルに出てくる『レッドピラミッドシング』っていうボスだな」

潮「もうちよつとソフトなものにしてくださいよ」

提督「うーん…あつ、じゃあこれは？」

潮「ミイラ男ですか…まあ妥協点ですね」

提督「え？ミイラ男じゃないよ」

潮「え？」

提督「これ、BIOHAZARDに出てくるノスフェラトウだよ」

潮「ホントだ！よく見ると包帯じゃない！……つて、いい加減ホラーゲームのキャラから離れてください！」

提督「えー何でー」

潮「怖すぎるからですよ！もつとドラキュラとかフランケンシュタインとかにしてください！」

提督「それじゃ捻りがないじゃん…」

潮「なくていいんです！」

提督「でも王道の仮装は作ってないぞ？」

提督「イビル、ラウラ、青鬼、ツインヘッド、リヘナラドル、ヴェルデューゴ…」

潮「全部却下です」

提督「えーじゃあもう着るものないんですけど」

潮「もう血糊垂らすだけでいいんじゃないんですか？提督元々ゾンビみたいな顔です」

潮「……まあ、潮の手作りクッキーもあるので、そんなに多く買わなくていいと思います」

提督「えっ…!? そ、それはつまり…」

潮「か、勘違いしないでください！ 潮はみんなに食べてほしいから作っただけです！」

提督「それでもありがたいよ…」

潮「そ、そんなことよりもうパーティまで時間がありませんよ！」

提督「ん…？ マジだ！ 着替えねえと！」 アセアセ

潮「潮も仮装してきますからまた後で！」 ダツ

提督「おう！ またな！」

—1時間後—

提督「久々に着たら腹が少しきついな…」

提督「やっぱり夜中にポテチはまずかったか…」

「提督、潮です」 コンコン

提督「おう、入ってくれ」

潮「失礼しますね」 ガチャ

提督 「おお：CLANNADか」

潮 「はい。汐ちゃんにしました」

提督 「意外だな、お前がアニメキャラのコスプレするなんて」

潮 「漣ちゃんにオススメされて見たんですよ」

提督 「なるほどね。いいアニメだったろ？」

潮 「はい！特に汐ちゃんは名前も同じなので親近感があつて、感情移入しちゃいました」

提督 「よきかなよきかな。他には見てないの？」

潮 「まだCLANNADだけです」

提督 「そか。んじやまあ後でおすすめのDVD貸すよ」

潮 「ありがとうございます！」

提督 「おう。……さて、準備はもう出来てるぞ」

潮 「あ、はい。じゃあ……」

潮 「提督、Trick or Treat？」

提督 「Trickで」キリツ

潮 「提督？」ジト

提督 「冗談だ。ほらお菓子」

潮「わー♪ありがとうございます！」

提督「まったく…じゃあ次俺のターンな！」

提督「潮、Trick or Trick!？」

潮「大概にしてくださいよ？」

提督「…：Trick or Treat：」

潮「はいどうぞ」

提督「手厳しいなあ…」

潮「提督がふざけたからです」

提督「いや冗談…：」

コンコン「提督？いますか？」

提督「つと、とりあえずこの話はまた後にすつか」

潮「そうですね」

コンコン「提督ー？」

提督「はいはい！開いてるから入ってきて平気だぞー！」

【11月】

提督「あゝさつぷ…」ザツザツ

潮「提督、落ち葉集まりましたか？」

提督「おう、まあそこそこな」

提督「しつかしお前もこんなクソ寒い中よく大掃除なんてやろうと思ったな」

潮「寒いから、ですよ。そっちの方が焼き芋が美味しく感じます」

提督「まあ一理あるが：こういうのつて大抵大晦日じゃない？」

潮「大晦日も掃除やりますよ？」

提督「は？」

潮「は？じゃないですよ。当たり前じゃありませんか」

提督「いやいやいや：じゃあなんで今掃除してんの？」

潮「いや、朝起きてふと庭を見たら落ち葉が溜まつてたものですから」

潮「これ大晦日にやるのはきついなく、と思ひまして」

提督「で今に至る、と」

潮「はい」

潮（本当は焼き芋食べたかっただけなんだけど）

提督「：ま、確かにそうか」

潮「あれ？怒らないんですか？」

提督「怒って欲しかった？」

潮「いえ全く。でもあの流れなら普通怒るじゃないですか」

提督「まあそうかもな。でもよくよく考えたら確かに大晦日にこの量は終わらねえよ」

提督「多分俺途中で遊び始めてたと思うよ」

潮「…まあ」

提督「それに、みんなが手伝ってくれたから実際の量はそうでもないしな」

潮「皆さん快く手伝ってくれましたもんね」

提督「ああ。特に一航戦の二人が」

提督「……とまあそういうわけで、別に怒る気にはならなかったわけよ」

潮「なるほど」

提督「まあさすがに一人でこれ全部だったら怒ってたけどな」

潮「潮そこまでひどいこと言いませんよ」

提督「知ってるよ。…つと、もうこんな時間か。そろそろ残り集めちやおうぜ」

潮「了解です」

提督「ふいふとやっつと終わった。みんなありがとなー!!」

イエイエ　　ハヤクヤキイモタベタイ　　サスガニキブンガコウヨウシマス

潮「じやあまあ早速焼き芋作りますか」

提督「そうだな。えーとサツマイモを…」

サツマイモ（2t）ドン☆

提督「……」

潮「どうしたんですか提督？」

提督「ん……いや多くね？」

潮「そりやあ艦隊全員ですから」

提督「まあそうなんだけど…落ち葉足りるかなあ」

潮「最悪、高速建造材でやっちゃいましょうよ」

提督「黒焦げになるわ」

潮「冗談はさておき…まあ大丈夫だと思えますよ」

提督「確かに落ち葉も結構量あるしな…よし、みんなー!!最後の仕事だぞー!!」

オーー!!

くアルミホイールマキマキ&ファイアータイムく

提督「あつふ……」モグモグ

潮「意外と足りましたね」モグモグ

提督「ちよつと危なかつたけどな」

提督「ていうか一航戦の二人アルミホイル巻くの早すぎじゃね？」

潮「なんかもうそういう工場みたいでしたもんね」

提督「ちよつと残像見えてたしな」

潮「あの二人は食べ物が絡むと本当にすごいですね」

提督「な。あんだけあつたのに10分ぐらいでなくなつたもん」

提督「まあおかげでみんな一緒に食えてるわけなんだけど」

潮「ふふ。……あ、提督」

提督「ん？」クルツ

チュツ

潮「お芋、付いてましたよ♪」ニコツ

提督「おまつ……」

潮「うふふ。1度やってみたかつたんです」

提督「つたく、じゃあ今度はこつちから……」

テイトク？ シレイカン？ テイトクサン？

提督「ぐっ…」

潮「こつちから…何ですか？」フフ

提督「…何でもねえよ。一段落したら帰って執務な」

潮「ふふ。はい」

提督「ところで潮」

潮「何ですか？」

提督「お前最近太つてドゴオオオン!!」

潮「よく聞こえなかったのもう一度言ってもらえますか？」ニコニコ

提督「あ、いや何でもねえっす…」

潮「そうですか。それじゃあ早く執務に取り掛かりましょうか」

提督「そうだな…」

【12月】

提督「じんぐつべーじんぐつべー鈴がなるー」

提督「今日はーたのっしーいークリスマスー」

潮「ヘツタクソですな」

提督「うっせ。わざとだよ」

提督「てかなんで俺クリスマスなのに仕事してんの？」

潮「サボったのがいけないでしょう」カキカキ

提督「だつてさー……」

潮「だつてじゃないです。ほら、またサボると今度は大晦日まで仕事ですよ？」

提督「……しよーがねー、やるか」

く数時間後く

提督「……」カキカキ

潮「ふう……提督、お茶でも淹れましょうか？」

提督「……」カキカキ

潮「提督？」

提督「ん？呼んだか？」

潮「あ、いえ、お茶にしようかと思つたんですが」

提督「おおそうか。んじゃ休憩すつか」

潮「はい。今淹れますね」

提督「サンキュ」

潮「……提督ってアレですよ。」コポコポ

提督「あん？」

潮「要領悪いですけど、集中したらとことんやりますよね」ドウゾ

提督「要領悪いは余計だ。でもまあ、確かにな」アリガト

提督「昔から何かに熱中すると抜け出せなくてな。時間を忘れることがよくあるんだ」

提督「おかげで万年寝不足だよ」アハハ

潮「まあ、何かに熱中することはいい事だと思いますよ。趣味にしろ、勉強にしろ」

提督「そりやどーも。…あちっ」

潮「あ、氷まだでしたね。持ってきますよ」

提督「ん、悪いな」

潮「もう慣れましたよ」フフ

くさらに数時間後く

提督「んー……終わったく……」ノビー

潮「なんとかフタマルマルマルまでに終わらせられましたね。お疲れ様でした」

提督「お前もな。…そーいやパーティって何時からだっけ」

潮「フタマルサンマルだったはずですよ」

提督「そか。んじやとつと準備して向かうか」

潮「あ、じゃあ潮は一旦部屋に戻りますね」

提督「……？一緒に行かないのか？」

潮「すみません。ちよつと準備があるので」

提督「ふーん？了解。んじやまあ後でな」

潮「はい」

ガヤガヤ ガヤガヤ

提督「やつぱりみんなクリスマス衣装に着替えてくるか」

提督「おつ利根に筑摩！2人は今年もそれか。相変わらず良く似合うなあ」

提督「よー龍驤。相変わらずでつけー袋だなあ。死体でも入ってんのか？痛って！冗談だつて！」

提督「お？はつつんに谷風に江風じゃんか。うんうん、3人とも可愛いぞ」

潮「提督！」

提督「ん、おお。潮来た…か……」

潮「サントコスチューム

提督「……」アゼン

潮「て、提督？どうしたんですか？」

提督「可愛い……ボソツ

潮「え？」

提督「最高に可愛いぞ潮オ！なんだこの可愛さ!？」

潮「ちよ、提督!？」

提督「今までいろんな姿見てきたけど可愛すぎだろ！もう表現力なさすぎて可愛いとしか言えねえよ！」

潮「や、やめてくださいよ／＼／」

提督「なんなんだよこれ!？天使か！天使なのか！」

潮「／／／」プシュー

提督「やはり俺の嫁は世界一イイイイ!!」

提督「はあ……はあ……」

提督「ふう……スッキリした」

潮「て、提督……」

提督「うん？」

潮「う、潮の衣装、そんなに可愛かったんですか……？」

提督「当たり前だろ？ なんならもう一度……」

潮「わーっ！ わーっ！ もう大丈夫ですから！」 ワタワタ

提督「そうか？ ならいいんだが」

潮「……その、ありがとうございます／＼」

提督「おうよ。しっかしまあ似合ってるには似合ってるんだが……」

潮「？」

提督「生地少なくてねえか？ 肩とか丸出しだし。寒くないか？」

潮「え？ いえ……そんなことは……クチツ」

提督「言わんこつちやない。俺の上着羽織つとけ」 ファサツ

潮「あ、ありがとうございます」

提督「潮……俺のために気合入れてくれんのはありがたいんだけどさ。お前が病気に
なつたら意味ないよ」

潮「提督……」

提督「……よし、んじゃパーティに繰り出すとしようぜ！」

潮「はい！」

潮「もうおなかいっぱいです…」

提督「俺もだ……」

潮「後片付けは皆がやってくれるそうなので私たちは戻りましょうか」

提督「だな。……お。潮、外見てみる」

潮「あ…雪……です…ね……」

提督「まさかのホワイトクリスマスかー」

潮「なんですか『まさかの』って」クスクス

提督「うっせ。別に意味はねーよ」

潮「ふふ。……あ、そうだ提督、大事なことを言い忘れてました」

提督「何が………ああね」

提督&潮「潮（提督）、メリークリスマス！」

【大鷹編】

【1月】

提督 「あけましておめでとう」 ペコリ

大鷹 「おめでとうございます」 ペコリ

提督 「今年もよろしく」

大鷹 「こちらこそ」

提督 「……うし、初詣行くか」

大鷹 「ええ。潮さんは？」

提督 「七駆のみんなと行ったよ」

大鷹 「そうですか」

— 神社 —

ザワザワ ガヤガヤ

提督 「いただきます」 パシッ

大鷹 「いただきます」 パシッ

提督 「……………」 パクパク

大鷹 「……………」 モクモク

提督 「……………」 モグモグ

チラッ

大鷹 「……………」 カチャ

大鷹 「どうぞ」 コトツ

提督 「さんきゅ」

提督 「……………」 タラー

大鷹 「……………」 パクパク

提督 「……………」 美味しい」 モグモグ

大鷹 「よかったです」 ニコ

提督 「……………」 パクパク

大鷹 「……………」 モクモク

提督 「……………」 なあ」

大鷹 「はい？」

提督 「なんて願った？」

大鷹 「……教えません」

提督 「なして？」

大鷹 「……願う事は口に出すと叶わないんですよ」

提督 「………そ」

大鷹 「………」 コポコポ

提督 「………」 ボー…

大鷹 「どうぞ」 コトツ

提督 「……ん、さんきゅ」

大鷹 「………」 ズズー…

提督 「………」 ボー…

大鷹 「ふう……」 コトツ

提督 「………」 ボー…

大鷹 「………」 クシユツ

提督「お前もだろ……」ナデナデ

大鷹「……………フフツ」

提督「……………フツ」

〔2月〕

提督「……………」ボロツ

大鷹「……………結構派手にやられましたね」

提督「戦艦は何でもそうだが全力で物を投げるのはやめて欲しいな」

大鷹「今日は大目に見ましよう」

提督「そのつもりだけどさ」

朝霜「司令 覚悟ー！」バアン

駆逐艦達「「かくごー!!!」

提督「次はてめえらかよ…」

大鷹「……………」ポリポリ

提督「……………」ポリポリ

大鷹「……………」ポリポリ

提督「……………」あと何個？」ポリポリ

大鷹「68個です……………」ポリポリ

提督「……………」ガンバ」ポリポリ

大鷹「はい……………」ポリポリ

大鷹「うー……………」グデー…

提督「お疲れさん」ナデナデ

大鷹「はい……………」

提督「……………」ナデナデ

大鷹「……………」ボー…

提督「……………」ナデナデ

提督「……………」

提督「……………」ポコッ

大鷹「うつ……………」

提督「……………」悪い」ナデナデ

大鷹「……………」ムスッ

提督「……………」ナデナデ

大鷹「……………」ムスー

提督「……………」ハア

提督「……………」スッ

大鷹「……………」？」

チュッ

大鷹「……………」／／／

提督「……………」ごめん」

大鷹「いえ……………」／／／

大鷹「そろそろ……」ムクリ

提督「今日は座つてろ」ポム

大鷹「でも……」

提督「いいから」スクツ

提督「お粥でいいな？」スタスタ

大鷹「……ありがとうございます」

提督「……ん」

提督・大鷹「いただきます」

提督「……」パクパク

大鷹「……」モクモク

提督「……」パクパク

大鷹「……」モクモク

提督「あっ……」

大鷹「どうされました？」

提督「恵方巻き……」

大鷹「あぁー……」

提督「……まあいいか」

大鷹「いいんですね……」

提督「食うか？」

大鷹「いえ」

提督「そ」

大鷹「………」モクモク

提督「………」パクパク

ガチャ

赤城「提督、豆余ってませんか？」

提督「帰れ」

大鷹「帰ってください」

【3月】

提督「……………」ガタガタ

大鷹「提督、五人囃子はもう一段上です」

提督「ん…そか…」ガタガタ

提督「これでいいか？」

大鷹「はい。あら…右大臣と左大臣逆ですよ」

提督「あれ？左に爺さんじゃないのか？」

大鷹「人形から見て左に、ですよ」

提督「そか…うし、と」

提督「これで大丈夫だな」

大鷹「ですね。あとは…：間宮さんのところで雛あられでも貰ってきましようか」

提督「大鷹、これ見てみ」

大鷹「？」

提督「お内裏様改二」チャキーン

大鷹「バチ当たりますよ」

提督「……………♪」ニコニコ　ポリポリ

大鷹「提督は本当に甘いものが好きですね」

提督「まあな。お前も食うか？」ガサ

大鷹「それ、特注のやつですよね？」

提督「うん。間宮に頼んでたやつ」ヒョイ　パク

大鷹「なら遠慮しときます。貴方が注文する物つてすごく甘いじゃないですか」

提督「うーん……そっか。ならこっちの市販のやつ食うか？」スツ

大鷹「それならいただきます」ガサガサ

大鷹「ん……美味しい」ニコ

提督「そりやよかった」ガタツ

大鷹「淹れますよ」ガタツ

提督「ん、さんきゅ」ストン

大鷹「いえいえ。……コーヒー……いや、お茶ですね？」カチャカチャ

提督「うん。頼む」

大鷹「了解です」

提督「……………」

大鷹「……………」

提督「……………」

大鷹「……………」

大鷹「……………」

提督「……………」

大鷹「……………」

大鷹「……………」

提督「……………」

大鷹「……………」

提督「……………」

大鷹「……………」

提督「暇」

大鷹「……そうですか」

提督「構って」

大鷹「……………」ペラッ

提督「……………」

大鷹「……………」カサカサ

大鷹「……………」ポリポリ

提督「……………」ガタッ
スタスタ

提督「大鷹、」トントン

大鷹「はい？」クルッ
プニッ

提督「フツ……………」

大鷹「…………ハア」パタン

提督「……………」ドヤー

大鷹「……ふんっ」ドゴォ!!

提督「かつ…………はっ…………」ドサッ

大鷹「読書の邪魔しないでください」

提督「ハイ…………」ピクピク

大鷹「ふう……………」

大鷹「……………」ペラッ

提督「クソ……………じゃあもう人形の整備でもしとくよ……………」

大鷹「壊さないでくださいね」ペラッ

提督「ガキか」

提督「あ、首とれた」

大鷹「だから言ったのに……………」

【4月】

大鷹「……………」ポケー

大鷹「……………」

提督「……………いしよつと」ドカッ

大鷹「……………どんな塩梅ですか？」

提督 「飲み大会が始まった」ゴソゴソ

大鷹 「今年はポーラさんもいるから白熱しそうですね」

提督 「マジでやめて欲しい」ゴソゴソ

提督 「……飲むか？」ゴトツ

大鷹 「いただきます」スツ

提督 「ん」キュポン

提督 「………」トク トク トク

大鷹 「………」

提督 「んじゃ、乾杯」スツ

大鷹 「乾杯」チン

提督 「………」ふう

大鷹 「……ふう」

大鷹 「……飲むやすいですね、これ」

提督 「そ……」

大鷹 「またジュースですか」

提督 「飲めんからな」

大鷹 「……少しくらいお酒が飲めるようになった方が」

提督「ほざいてろ」ゴクゴク

大鷹「……まあいいですけど」コクコク

提督「……ふう」

大鷹「……ふう」

ゴウツ!!

提督「んおっ……」

大鷹「あら……」

提督「……」

大鷹「……」

提督「……風流だな」

大鷹「……ですね」

提督「……」

大鷹「……」

提督「……」

大鷹「……」ウト

提督「……」

ウト

大鷹「……………」ウト
ウト

提督「……………」

大鷹「……………」コテン

提督「ん……………」

大鷹「スー……………」

提督「……………」ナデナデ

大鷹「んっ……………」フフツ」ニコ

提督「……………」ナデナデ

大鷹「スー……………」

【5月】

大鷹「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

大鷹「……………」チラツ

提督「……………」ボー…

大鷹「…提督」

提督「んあ……？」ボー…

大鷹「手を動かしてください」

提督「……うん」

提督「………」カリ

カリ

大鷹「………」カリカリ

提督「………」カリ

カリ

大鷹「………」カリカリ

チラッ

提督「………」コトツ

提督「………」ボー…

大鷹「………」ハア」

大鷹「五月病なのは分かりますけど、ちゃんとやらないと今日中に終わりませんよ？」

提督「分かってただけだよ…どうにもやる気が出なくて」

大鷹「…まあそれが五月病ですから」

提督「うーん………」

提督「ごめん、ちよつと気分転換してくるわ」ガタツ

大鷹「…分かりました。早めに戻ってきてくださいね？」

提督「分かつてる」ガチャ

ボタン

「イエツヘエエエイ……」

大鷹「……………ハア」

大鷹「……………お茶でも淹れようかしら」

—1時間後—

大鷹「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

大鷹「……………」フウ」コトツ

大鷹「……………」チラツ

大鷹「……………遅い」

ガチャ

大鷹「遅すぎますよ……あら、潮さん」

潮「お疲れ様です大鷹さん」

大鷹「何かありました？」

潮「いえ特には。進捗の確認ですかね」

大鷹「そうだったんですね」

潮「ええ。あ、それとこれお土産です」ドサツ

提督「」ピクピク

大鷹「あら……わざわざありがとうございます」ペコリ

潮「いえいえ。当然のことでしたまでです」

大鷹「それじゃお礼に、お茶でもいかがですか？」

潮「ありがとうございます」ニコ

潮「……ふう」

潮「美味しい……またお茶淹れの腕上げましたね」

大鷹「ふふ。ありがとうございます」

潮「執務の方は？」

大鷹「私の分は全て終わりましたよ」

潮「さすが。誰かさんに見習って欲しいですね」

大鷹「ふふっ」

潮「そうだ大鷹さん、武蔵さんから伝言預かってますよ」

大鷹「あら……なんの用かしら？」

潮「えーと……『今夜のディナー、一緒にどうだ？』だそうです」

大鷹「それはいいですね。是非！」

潮「分かりました。伝えておきますね」

潮「集合は20時に武蔵さんの部屋だそうですね」

大鷹「分かりました。ありがとうございます」

潮「いえ。……よくご一緒するんですか？」

大鷹「ええ。たまに清霜さんや大和さん、最近では神鷹さんも一緒に」

潮「へえ……」

大鷹「今夜一緒に行きます？」

潮 「いいんですか？」

大鷹 「もちろん。武蔵さんも私も、お客さんは大歓迎ですから」
潮 「それじゃあ、お言葉に甘えてご一緒します！」

提督 「それ俺も行きたい！」 ↑ 簀巻き状態
大鷹・潮 「貴方は仕事をしてください！」

【6月】

ザー

提督 「……………」 カリカリ
大鷹 「……………」 カリカリ
提督 「……………」 カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

提督「……………」ガタツ

大鷹「……………」カリカリ

提督「……………」ガラガラガラ

ザー

大鷹「……………」カリカリ

提督「……………」

大鷹「……………」コトツ

大鷹「…何してるんですか」

提督「いや…………別に…………」

大鷹「そうですか……………」ノビー

大鷹「つふう……………」

提督「雨の日ってなんかいいよな」

大鷹「分かります」ガタツ

提督「だよな。やっぱりお前もこっち派だったか」

大鷹「なんですかこっち派って……………」スタスタ

提督「別に…………あ、また時雨がいい雨だねしてる…………」

大鷹「傘もささずに……風邪引きますよ……」

提督「平気だよ。あいつ雨降った時毎回やってるけど風邪ひいたとこ見たことないもん」

提督「それにほら……」

大鷹「あ……山城さん」

提督「な？」

大鷹「ええ……」

提督「……さ、執務再開するか」

大鷹「そうですね」

提督「……げ」

大鷹「どうされました？」

提督「消耗品のチェック忘れてた……補充申請来て……」

大鷹「……まあ、少しくらいなら平気でしょう」

提督「いや、これ全部」ビツシリ

大鷹「……………」

提督「あの……明日買いに行くんで……勘弁してください……」ビクビク

大鷹「……………」

提督「た、大鷹さん……？」ビクビク

大鷹「明日、必ず全部買ってくださいね」ゴゴゴゴ

提督「は、はひ……」ビクビク

—翌日—

提督「んじや行くか」

大鷹「ええ。メモは持ちましたか？」

提督「ガキじゃねーんだから大丈夫だつて」

大鷹「いつも仕事や任務を忘れるのは誰ですか？」ニツコリ

提督「も、持ってきます……」ダッ

大鷹「まったく……」

アリヤアトシター

提督 「おつも……」ズツシリ

大鷹 「結構買いましたね」

提督 「これ鎮守府までか……ダルっ」ウイーン

大鷹 「文句言わない。自業自得ですよ」ウイーン

提督 「ちっ……まあでもいい感じに晴れてよかつて」

ザー ザー

提督 「……………」

大鷹 「あら……傘もってきてよかった」バサッ

提督 「……マジで言ってるのかよー!!」

大鷹 「どうされました？」

提督 「傘もってきてない……」

大鷹 「貴方って人は本当に……」ハア

提督 「いやだって晴れてたし……」

大鷹「梅雨なんですから折り畳みぐらい持つてきてくださいよ……」

提督「うう………ていうかお前、軍人は傘さしちゃいけねーんだぞ！」

大鷹「カツパを着てきてから言うんですね」

提督「うぐう！」グサツ

大鷹「ハア………ほら」グツ

提督「あ………？」

大鷹「私の傘に入ってください。これなら平気でしよう？」

提督「………いいのか？」

大鷹「……まあ風邪ひかれても困りますし」

提督「………ありがとう」

大鷹「どういたしまして」

ザーザー

提督「………」スタスタ

大鷹「……………」スタスタ

提督「……………ん、大鷹」スタスタ

大鷹「はい？」スタスタ

提督「もつとこつち寄れ。肩濡れてんぞ」ダキヨセ

大鷹「あ、ありがとうございます」

提督「うん……………にしてもちよつと雨強くなってきたか？」

大鷹「そうですね……………これはどこかで雨宿りした方がいいかもしれませんね」

提督「賛成」

ザーザー

大鷹「……………ふう」カチャ

提督「運良くカフェがあつてよかつた」

大鷹「ですね」

提督「ズズ……………ふう」カチャ

大鷹「あら……提督？」

提督「んあ？」

大鷹「あれ、花嫁さんでしょうか？」ユビサシ

提督「んー……そうみたいだな」

大鷹「綺麗ですね……」ウツトリ

提督「そうだな。……そっかジューンブライドか」

大鷹「なんですかそれ？」

提督「んー……俺もよく知らないんだけどな。6月に挙式すると幸せになれるっていう言い伝えがあるらしい」

大鷹「へえ……」

提督「欧米発祥らしいが……日本でやったら梅雨にクリーンヒットだわな」

大鷹「ですね……。でも、一生忘れられないでしょうね」

提督「いい意味でも、悪い意味でもな」フフツ

提督「さて、と……雨も弱まってきたし、そろそろ行くか」

大鷹「了解です」

【7月】

提督「準備できたか？」

大鷹「ええ。行きましよう」

ザワザワ　　ザワザワ

提督「……人が多い！」

大鷹「祭りですからね」

大鷹「それよりも提督」ツンツン

提督「んあ？」

大鷹「私に対して何か言うことは？」

提督「え？んー……」ジッ

提督「……髪留め変えた？」

大鷹「え……あ、まあそれもそうなんですけど……」

大鷹「もつと他に何かありません？」

提督「うーん……あつ、グロス変えた？」

大鷹「まあ、変えましたけど……ていうかそこまで分かると気持ち悪いです」

提督「オイ」

大鷹「すみません。つい本音が」

提督「つたく……浴衣、似合ってるよ」

大鷹「……ありがとうございます」

提督「ん……」

提督「とりあえず花火まで時間あるから出店でも回ろうぜ」

大鷹「そうですね。腹ごしらえも兼ねて行きましょうか……つと」

大鷹「提督」パツ

提督「ん……ああ」

ギユツ

提督「……離すなよ」

大鷹「……ええ」

提督 「金魚すくいねえ…」

大鷹 「私得意ですよ」

提督 「捕っても飼えねえぞ？」

大鷹 「やるのが楽しいんじゃないですか」グイッ

提督 「…まあいいけど」

大鷹 「ま、こんなところですね」ビチビチ

提督 「屋台荒らしじゃねえか」

提督 「祭り飯は焼きそばこそ至高」モグモグ

大鷹 「青海苔がちよつと嫌ですけどね」モグモグ

提督 「屋台のやつつてなんでこんな美味いんだろうな」

大鷹 「本当ですよ。雰囲気のおかげもあるんでしょうけど」

提督 「ケバブが美味しい」モグモグ

大鷹 「フランクフルトも美味しいですよ」モグモグ

提督 「ひと口くれ」

大鷹 「ケバブと交換です」

提督 「おk。ほらよ」スッ

大鷹 「はむっ」

大鷹 「ん……美味しい」ニコ

提督 「おま……食いすぎ……半分……」

大鷹 「フライドポテトもつけますから」

提督 「許す」

大鷹 「ご一緒にポテトもいかがですk」

提督 「うるせえ」モグモグ

提督「射的やろうぜ」

大鷹「いいですけど……射的は苦手なんですよね……」

提督「空母なのに？」

大鷹「私は射ちませんから……」

提督「そーいやそーうか」

提督「んじややめるか？」

大鷹「いえ。苦手ですが、嫌いなわけではないですよ」

提督「ん、ならやるか」

大鷹「ええ」

大鷹「提督、上手いですね」

提督「菓子しかとってねえけどな」ドツサリ

提督 「甘い」モキユモキユ

大鷹 「ベビーカステラって初めて食べました」モキユモキユ

提督 「美味しいだろ？」

大鷹 「ええ。お茶が欲しくなりますけど」

提督 「持ってきてるぞ」チャプ

大鷹 「ありがとうございます。お礼にかき氷をどうぞ」スツ

提督 「ありがとう」シヤクシヤク

提督 「ヴェアアアアア!!!」キーン

大鷹 「大丈夫ですか？」ナデナデ

提督 「広島焼き……って言うのと怒られるかな」

大鷹 「浦風さん達ですか」

提督 「ああ。お好み焼きの日にはよく喧嘩してるよな」

提督 （一応浦風って大阪出身のはずなんだがなあ…）

大鷹 「ちなみに提督的にはどっちですか？」

提督 「どっちでもいい」

大鷹 「……それ、大丈夫なんですか」

提督 「……正直ヤバイ」

大鷹 「……」

提督 「ちなみに大鷹的には？」

大鷹 「私は大阪焼き、お好み焼きですかね」

提督 「……そろそろ時間か」

大鷹「行きましょう」ギユツ

提督「ああ」ギユツ

――土手――

提督「よっこいせ……」ドサツ

大鷹「よいしょ……」トスツ

提督「……あと何分？」

大鷹「5分ぐらいですね」

提督「……寝るか」ゴロリ

大鷹「なんでですか」

提督「冗談だよ。星でも見てようぜ」

大鷹「詳しいんですか？」

提督「全く」

大鷹「なんなんですか……」

提督「いいだろ別に……」

ヒュー…………ドオン！

提督「ん」

大鷹「わあ…………」

ヒュー…………ドオン！

提督「ほお…………」

大鷹「綺麗…………」

提督「お前の方g」

大鷹「そういうのいいんで」

ヒュー…………ドオン！

大鷹「…………提督」トスツ

提督「ん…………」

大鷹「……………」ヨリカカリ

提督「……………」ヨリカカラレ

ヒュー…………ドオン！

提督「…………なあ大鷹」

大鷹「なんですか…？」

提督「…………なんでもない」

大鷹「…………そうですか」

ヒュー…………ドオン！

大鷹「提督…………」

提督「うん…？」

大鷹「呼んでみただけです…」

提督「ん…………」

提督「……終わったか」

大鷹「そうみたいですわね」

提督「いやー良かった。また来年も来るか」

大鷹「そうですね。ところで提督」

提督「ん？」

大鷹「終わりみたいな雰囲気出してますけど、皆さんへのお土産まだ買ってませんよね？」

提督「……そうでした」

黒潮「広島焼きや！」

浦風「お好み焼きじゃ！」

大鷹「なんでアレ渡したんですか……」コソコソ

提督「とつきーに強奪されたんだよ……」コソコソ

黒潮・浦風 「司令はん（提督）はどっちや（じゃ）!？」
提督 「勘弁してくれ……」

【8月】

提督 「うおーい大鷹ー」 コンコン

シーン…

提督 「いねーのかー？ 入るぞー？」 ガチャ

提督 「あれ……………ん、」

大鷹 「スー……………スー……………」

提督 「なんだ…」 スタスタ

ストン

提督 「……………」 ナデナデ

大鷹 「んっ……………」

提督「……………」ナデナデ

大鷹「スー…………スー…………」

提督「……………」チラツ

8月8日

提督「……………」ナデナデ

「魚雷!?!どこから!?!」

「潜水艦…………!?!きゃあつ!!」

「ああ……………もう……………」

ああ……また……か……

また私は……沈むのか……

……暗い……何も……見えない……

「てい……とく……」

ガシッ

ここにいますぞ

大鷹「ん……あれ……？」パチ

提督「起きたか」

大鷹「提督……？」

提督「よう」

大鷹「……………」ギユッ

提督「ん……………」

大鷹「提督……………」

提督「……………」

ナデ ナデ

大鷹「ん……す、みません……」グスッ

提督「……うん」ナデ

ナデ

提督「……ほれ」コトツ

大鷹「ありがとうございます……」

提督「……」ズズー

大鷹「……」

提督「……」ホウ

大鷹「……」

提督「……飲めよ」

大鷹「……」

大鷹「……」カチャ

大鷹「……」コク

大鷹「……」フウ

大鷹「……甘すぎます」

コク

提督「ふん……」

大鷹「……………」ズズー

大鷹「……………」フウ

大鷹「……提督」

提督「あ……？」ズズー

大鷹「もし私が沈みそうになったら……どうしますか？」

提督「どうするって……そりゃ助けるだろ」フウ

大鷹「提督一人でもですか？」

提督「行くだろうな」

大鷹「……上層部から圧力があっても？」

提督「ああ」

大鷹「……提督という立場が邪魔しても？」

提督「……………？どゆ意味？」

大鷹「……提督という立場上、果たさなければならぬ仕事がありますよね。例えば

艦隊の指揮とか」

大鷹「そういうものが邪魔をした場合は？という意味です」

提督「ふーん……」

提督「じゃあ、こんな立場（もの）いらなかな」

大鷹「え……………」

提督「多分淀ちゃんか長門に全部任せて助けに行くと思うぜ」

大鷹「…………それは何故ですか？」

提督「お前が大切だから」

大鷹「つ……………」

提督「それに……………」

大鷹「？」

提督「好きな女一人守れないなんて、提督である以前に男として失格だ」

大鷹「……………」

提督「大鷹……………」

大鷹「…………馬鹿ですね……………」

提督「ふん。馬鹿で結構」

大鷹「本当に……………」グスッ

大鷹（馬鹿で、素敵な人）

【9月】

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

ミーンミンミンミンミンミンミンミー

提督「……………」カリカリ
タンタンタンタン

大鷹「……………」カリカリ

ミーンミンミンミンミンミンミンミー

提督「……………」カリカリ
タンタンタンタン大鷹「……………」カリカリ
イライラ

ミーンミンミンミンミンミンミンミー

提督「」ブチッ

提督「うるせえええええ!!」バアン!!

大鷹「貴方の方がうるさいです!!」バアン!!

提督「ああ!?!今セミがうるせーから追い払ったんだろうが!!」

大鷹「それ以前に貧乏ゆすりがるさいんですよ!!」

提督「うるせーなあ!!こっちはイラついて仕方ねえんだよ!!」

大鷹「こっちのセリフですよ!!」

提督「やんのかあ!!」

大鷹「ああ!?!」

提督「……………」ハアハア

大鷹「……………」ハアハア

提督「……やめよう。こんなことしてる場合じゃない」ストーン

大鷹「ですね……」ストーン

提督「アイツらにもこの地獄を味あわせるべきか……」

大鷹「同意したいところですが……お仕置きで勘弁してあげましょう……」

く2日前く

ゴオオオオオ

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

コンコン

提督「ん……………」ピタッ

大鷹「……………」チラッ

提督「……………」ガラガラ

提督「窓の外で何やってんだ二人とも」

川内・江風「「忍者ごつこー！」」

提督「…………ガキか。危ないから中入れよ」

川内「へーきへーき！」

大鷹「お二人共、ここ2階ですよ？」

江風「大丈夫だつて大鷹さん！このくらいで怪我するほどヤワじゃないって！」

大鷹「それは……………そうですが……………」

提督「つーかお前ら何に乗って……」ノゾキ

エアコンの室外機

提督「ばっ……！お前ら今すぐ降りろ！」

川内・江風「へ？」

メキメキメキ ドオン！

川内「うわっ!?」スタツ

江風「うおっ!」スタツ

提督「あああああ!!」

大鷹「何の音……?……あああああ!!」

提督「土台を早めに補強しておくべきだった……」

大鷹「暑いからって後回しにしなければよかったですね……」

提督「……なあ大鷹」

大鷹「はい……？」

提督「とりあえず一旦休憩にして涼みに行かないか……？」

大鷹「賛成です……」

ゴオオオオ

提督「もう廊下で執務しない？」スタスタ

大鷹「ダメです」スタスタ

伊58「あ、てーとく！」

提督「おうゴーヤ。これから飯か？」

伊58 「うん！2人とも一緒にどうでち？」

大鷹 「すみません……もうお昼はすませてしまったんです」

伊58 「そっか……残念でち」

提督 「ごめんなゴージャ」

伊58 「ううん！大丈夫でち！」

伊58 「それじゃゴージャは行くね！」

提督 「おう。またな」

大鷹 「また今度」

伊58 「バイバイ！」 フリフリ

提督 「……………」 フリフリ

大鷹 「……………」 フリフリ

提督 「さて……………」

大鷹 「どうされました？」

提督 「……………いいこと考えた」

大鷹 「……………？」

提督 「執務室が暑ければ脱げばいいのだ」

→水着モード

大鷹 「何をやり出すかと思えば……」 ハア

提督 「理にかなってるだろ」

大鷹 「まあ……」

提督 「あと水を汲んだ桶と扇風機も用意した」 ゴトツ

大鷹 「それはありがたいですね。じゃあ早速……」

提督 「ちよつと待ちな」

大鷹 「はい？」

提督 「大鷹、お前も水着になるんだ」

大鷹 「ええ……」

提督 「お前もその服暑いだろ？涼しくなつちまえよ」

提督 「それに水使うから濡れても平気な格好の方がいいだろ？」

大鷹 「……まあ確かに。でも私水着持ってませんよ」

提督「それなら心配ない」ガラッ

大鷹「これは……?」

提督「お前のために用意した水着だよ。セレクトは神鷹に任せた」

大鷹「私の……ために……」

提督「どうだ?」

大鷹「……とても素敵です。ありがとうございます」

提督「そりゃよかった」

大鷹「じゃあ私、早速着替えてきますね」ガチャ

提督「おう。あ、大鷹」

大鷹「?」

提督「もしよかったらこの紐ビキん」

大鷹「結構です!!」バタン!

コン コン

大鷹「提督、着替え終わりました」

提督「おう」

大鷹「入りますね……」ガチャ

提督「お、おお……」

大鷹「どう……ですか……？」モジモジ

提督「控えめに言って最高」

大鷹「あ、ありがとうございます／＼」テレテレ

提督「いやー眼福眼福。……さ、執務再開するか」

大鷹「はい！」

提督「……」カリカリ

大鷹「……」カリカリ

提督「……」カリカリ

大鷹「……」カリカリ

ブウウウン

提督「……結局あんまり変わらねえな」カリカリ

大鷹「そうですね……」カリカリ

【10月】

ザザーン… ザザーン…

提督「大鷹、準備はいいか？」

大鷹「ええ、バツチリです」

提督「うし……」バサツ

提督「秋刀魚狩りじゃああああ!!」

大鷹「提督、択捉さん達が帰ってきました」

拵拵 「ただいま戻りました！」 ビシッ

松輪 「も、戻りました……」

佐渡 「戻ったぜー！」

対馬 「帰投しました……」

提督 「おかえり4人とも。成果はどうだ？」

拵拵 「3匹確保出来ました！」

提督 「そいつはよかった。疲れたろう、間宮に行つてきな」 ピラッ

松輪 「い、いいんですか……？」

提督 「おうよ」

佐渡 「司令も来いよー！」

提督 「俺はまだ仕事あるからダメ。おら、行つた行つた」

対馬 「……司令」

提督 「ん？」

対馬 「一緒に……いきませんか？」 ウワメツカイ

提督 「………u」

大鷹 「ダメですよ」

提督 「俺まだ1文字目も発音しきつてないんだが……」

大鷹「行く気満々だったでしょう。まったく……」

対馬「うふふ……」

佐渡「大鷹さんも来ないのか？」

大鷹「すみません。私も執務があるので……」

佐渡「そつかー……んじやひぶ達でも誘うか！」

佐渡「つーことで司令、追加でくれ！」

択捉「ちよつと佐渡！」

提督「いいよとろちゃん。ほいよ」ピラッ

佐渡「サンキュー！んじやまたなー！」ダダダ

択捉「あつ、もう……！すみません司令……」ペコリ

提督「いいよいいよ。ほら、皆も早く行かないと好きなメニュー売り切れちゃうぞ」

択捉「本当にすみません……では、失礼します」ペコリ

松輪「あ、ありがとうございます！」ペコリ

対馬「それじゃ……失礼しますね」ペコリ

提督「おう」

バタン

提督「…微笑ましいな」

大鷹「ですね」

提督「さてさてあと30匹か。頑張りますか」

大鷹「…そういえば提督、ひとつ疑問が」

提督「あん？」

大鷹「秋刀魚を集めるとどうなるんですか？」

提督「40匹集めると銀河になる」

大鷹「秋刀魚もですか!？」

コンコン

提督「うーい」

大鷹「はい」

榛名「失礼します！」ガチャ

提督「おお、おかえり榛名。報告書？」

榛名「はい！こちらです！」スツ

提督「ありがと。……おお！10匹確保か！」

榛名「はい！大漁でした！」

提督「よくやった！これで銀河が……あれ？」

大鷹「どうしました？」

提督「……なあ榛名、赤城はどこいった？」

榛名「赤城さんですか？ 帰投したあと加賀さんと一緒に秋刀魚を備蓄しに………あつ」

提督「大鷹オ！」ガタツ

大鷹「もう飛ばしてます」ブウウウン

大鷹「……あ、いました。備蓄庫裏です」

提督「あああああああぎい！！」ダダダダダ

大鷹「けど……行っちゃった」

榛名「どうしたんですか？」

大鷹「いえ、加賀さんが窘めてたので問題は何もなかったんですよ」

榛名「ああ……」

提督「……めつちや無駄足だったんだけど」ゼエゼエ

大鷹「早とちりするから……」

榛名「あはは……」

コンコン

大鷹「はい」

鳳翔「失礼します。提督、秋刀魚のことで少々……あら？」

大鷹「すみません鳳翔さん。ちょうど今工廠に行つてしまいました……」

鳳翔「あらそう……」

大鷹「どうぞおかけになつててください。今お茶も用意するので」ガタツ

鳳翔「気を遣わなくても大丈夫よ。大鷹ちゃんこそ、少し休憩したら？」

大鷹「え……わ、私ですか？」

鳳翔 「ずっと執務だったんでしょう？疲れが目に見えてわかるわよ」

大鷹 「そ、そうですか……？」

鳳翔 「そうよ。ほら、かけて」

大鷹 「え……でも……」

鳳翔 「いいから」

大鷹 「……はい」 ギシッ

提督 「ただいまー」 ガチャ

鳳翔 「おかえりなさい提督」

提督 「ありや鳳翔？大鷹はどした？」

鳳翔 「……」 ツンツン

提督 「んん……？おお……」

大鷹 「スー……スー……」

提督「珍しいな。コイツがここで寝てるなんて」

鳳翔「まあ、朝から執務でしたし」

提督「ありやー…：そういうやそうか」

鳳翔「休憩はちゃんとさせてました？」

提督「そもちろん。まあただ…：昨日ちよつと夜更かしたからな」

鳳翔「もう…：程々にしてください」

提督「善処する。…：んで、鳳翔は何の用なんだ？」

鳳翔「あ、はい実は…：」

大鷹「ん…：はっ!？」ガバツ

提督「おう、起きたか」

大鷹「て、提督？ 鳳翔さんは…：」

提督「用事が済んだから帰ってもらったよ」

大鷹「そ、そうですか…：」

大鷹「ところで、何故膝枕を？」

提督 「鳳翔と交代しただけさ。嫌だったか？」 ナデ

大鷹 「いえ……」

大鷹 「……あの、提督」

提督 「うん？」 ナデナデ

大鷹 「……しばらくこのままでもいいですか？」

提督 「……わかった」

大鷹 「……ありがとうございます」 ポスッ

提督 「……ん」

大鷹 「そういえば秋刀魚は？」

提督 「そこは問題ない」

提督 「予定より多く取れて今夜は秋刀魚パーティーだつてさ」 ナデナデ

大鷹 「楽しみですね」

【11月】

提督「……………」ムキムキ

大鷹「……………」コポコポ

提督「……………」モキユモキユ

提督「……………」ゴクン

提督「……………」大鷹

大鷹「はい？」コトツ

提督「膝枕して」

大鷹「寒いから嫌です」

提督「……………」

大鷹「ふー……………」ゴソゴソ

大鷹「……………」ペラッ

提督「……………」ツンツン

大鷹「……………」ペラッ

提督「……………」ツンツン

大鷹「……足でつづくのやめて貰えますか？」

提督「……膝枕」

大鷹「しつこい」ペラッ

提督「んだよ……」ボフッ

大鷹「……」ムキムキ

提督「……」ボー……

大鷹「……」ムキムキ

コンコンコン

提督「どーぞー……」ボー……

大鷹「どうぞ」

山城「報告書持ってきたわよ」ガチャ

提督「山城か……ありがと。そこ置いといて」

山城「見事にだらけてるわね」パサッ

山城「執務は終わってるの？」

大鷹「一応日勤のものは。炬燵を出したんで午後休にされました」

山城「相変わらず気ままね……」

提督「山城も入ってくか？」

山城「悪いわね。先約があるの」

大鷹「時雨さんですか？」

山城「ええ。最上も連れて買い出しに行くのよ」

提督「そ……じゃあついでにみかん買ってきて」

山城「嫌よ。なんでアンタの為に買ってこなきゃならないのよ」

提督「ストックが切れた」

大鷹「え、もうですか？」

提督「うん。ほら」カラツポ

大鷹「食べ過ぎですよ！」

提督「みかんが美味しいのが悪い」ゴロリ

山城「何訳の分からない事言ってるのよ」

大鷹「もう……山城さん、その買い物ついて行っても大丈夫ですか？」

山城「え？まあ……構わないけど」

大鷹「ありがとうございます。ほら、提督準備してください」

提督「え……めんどくせ……」

提督 「いいじゃんみんなで買ってきてくれよー」ゴロリ

山城 「コイツは……！」

大鷹 「提督」

提督 「んあ？」

大鷹 「さ つ さ と し て く だ さ い」ニコ

提督 「………ハイ」

バタバタバタ

山城 「……さすがね」

大鷹 「それほども」

ブウウウン

提督 「んで？お前らは何の買い出し？」

時雨 「化粧品かな」

最上 「ボクはお菓子！」

山城 「私も化粧品ね。あと、姉様に頼まれたシャンプーム」

大鷹 「皆さんそれぞれ別の物を買われるんですか？」

山城 「最初は1人で行く予定だったんだけどね。この子達もちょうど行くって聞いたから」ポーン

最上 「2人は何を買うの？」

提督 「……モガミン、それ以上聞かない方がいい。世の中には知らない方が」

大鷹 「みかんです」

提督 「オイ」

最上 「そうなんだ！じゃあボクとフロア一緒だね」

提督 「え？モガミンも無視？」

最上 「すぐに済んじやいそう？」

大鷹 「いえ。夕飯の買い物もついでにしていこうと思ってるので、多少時間はかかりますよ」

大鷹「なので、じっくり吟味してもらって大丈夫です」ニコ

最上「そう？ならゆっくり選ばせてもらおうよ」

提督「……………」

提督「なあ時雨……………」クルツ

時雨「扶桑のシャンプーって専門店のだよね？どれか分かるの？」

山城「メモを渡されたから大丈夫よ」

時雨「そつか。……………ねえ山城、頼みがあるんだけど」

山城「何？」

時雨「化粧品を少し見繕ってもらってもいいかな？」

山城「アンタが使うの？」

時雨「ううん。もうすぐ海風の誕生日だからさ」

山城「ああ……………分かったわ」

時雨「助かるよ」

提督「……………」

提督「……………なあ大鷹」クルツ

大鷹「私は和菓子ばかりですから、あまり参考にはなりませんよ？」

最上「全然平気だよ！むしろ別の角度からの意見が欲しいんだ」

大鷹「そうですか……？なら、ご一緒にしますね」
最上「うん！」

提督「……………」

提督「……新手のイジメだ」ボソツ

大鷹「何か言いましたか？」クルツ

提督「別に」

山城「それじゃあ、一旦お別れね」

提督「終わったやつからここに集合な」

最上「うん！」

時雨「分かったよ」

提督「んじやな」

大鷹「迷子にならないでくださいね」

提督「せめて時雨に言えよ」

時雨「僕もならないよ……」

提督 「Mサイズ3箱…いや、5箱だな」

最上 「そんなに買うの？」

提督 「執務室に置くからな。ある程度ストックしておかないとすぐ弾切れになる」

大鷹 「皆さんよく食べますから」

最上 「なるほどね」

提督 「今日の晩飯は？」 スタスタ

大鷹 「そうですね…カレイの煮付けとポテトサラダにしましょうか」 コロコロ

提督 「キュウリはなしにしてくれよ」

大鷹 「はいはい」

提督 「あとカレイは卵持ちがいい」

大鷹 「あればそうしますよ」

最上（夫婦ってよりかは親子みたい）

大鷹「こちらのポテトチップスはどうでしょう？」

最上「そんな味もあつたの？面白そうだからそれも買おう！」

大鷹（最上さんって、少し提督に似てるわね）

最上「あとこれと…これも買おう。よし、待たせたね…って、あれ？提督は？」

大鷹「さすがにダンボール5箱は邪魔なんで、先に会計してます」

最上「そっか」

提督「前が見えねえ」コロコロ

山城「海風は肌が綺麗だから化粧水なんかいいかもしれないわね」ジー

時雨「なるほど……」

山城「予算はいくらくらいあるの？」

時雨「できれば一万円以内で抑えたいけど、良いものがあればそれ以上でも平気だよ」

山城「そ。なら一式揃えてプレゼントしましょ。足りなかつたら私も出すわ」

時雨「……いいのかい？」

山城「ええ。アンタの妹なら私の妹も同然だし」

時雨「ありがとう山城」ニコ

山城「ふん」

時雨「お待たせ」

提督「おう。…山城は？」

時雨「最上階に行つてるよ。扶桑のシャンプーはそこしか売ってないからね」

提督「そうか。…にしても随分買ったな」

時雨「提督も人のこと言えないと思うけど…」

提督「ばっかお前これでもすぐなくなるんだぞ？」

時雨「なんで……つてそっか。そうだね」

提督「察したか」

時雨「まあ、結構執務室には行くからね」

提督（赤城……）

時雨（赤城さん……）

赤城「クシュツ」

加賀「風邪ですか？」

赤城「大丈夫よ加賀さん。ちよつと鼻がムズムズしただけだから」

加賀「そうですか……」

最上「お待たせ！」

大鷹「遅れました」

提督「おーう来たか」

時雨 「最上…買いすぎじゃないかい？」

最上 「そんなことないよ！っていうか時雨だって人のこと言えないじゃないか」

時雨 「僕のは化粧品一式だから仕方ないんだよ」

大鷹 「提督、みかんはどうしたんですか？」

提督 「車に置いてきたよ。邪魔だしな」

大鷹 「そうでしたか」スツ

提督 「前が見えなくて少し危なかったぜ」ガサツ

時雨 ・最上 「……………」ジ―

提督 「…………？何だよ？」

時雨 「いや極めて自然だなあ、と」

提督 「はあ？」

最上 「気にしなくていいよ」

提督 「…………？」

提督 「…………遅いな」

時雨「ちよつと電話かけてみるよ」プルルルルル

時雨「……………」プルルルルル

ガチャ『もしもし?』

時雨「あ、山城?今どこにいるの?」

『その声は時雨?』

時雨「あれ……………もしかして扶桑?」

扶桑『そうよ。山城に何かあったの?』

時雨「いや、待ち合わせ場所に来るのが遅いから心配でかけたんだけど……………」

時雨「その様子だと、携帯を忘れてるみたいだね」

扶桑『そうね。まったく山城だったら……………。多分山城なら迷子センターにいると思う

わ』

時雨「どうしてだい?」

扶桑『不幸だから……………なんてね。単なる方向音痴よ』

時雨「そ、そつか…。ありがとう扶桑」

扶桑『提督によろしくね』

時雨『うん。それじゃ切るね』

扶桑『ええ。またね』ガチャ

提督「……で、どうだった？」

時雨「携帯忘れてたみたいだけど……居場所は分かったよ」

提督「なんでや。……それでどこ？」

時雨「迷子センターだつてさ」

提督「迷子センター？なんで……つてそうか」

大鷹「そういうえば山城さん、方向音痴でしたね……」

時雨「あ、知つてたの？」

提督「秘書艦の時にな。俺初めて見たよ。成人女性が迷子センターにいたところ」

最上「それはともかく、とりあえず行つてみようよ！」

時雨「だね。あ、入れ違いにならないように僕は残るよ」

提督「サンキュ。んじゃ行つてくるわ」

提督「ただいまー」

時雨「あ、おかえり」

山城「遅れて悪かったわね」

時雨「大丈夫だよ」

大鷹「これで全員揃いましたね」

最上「じゃあ早速……」

提督「帰るか」

最上「ええー!? お昼じゃないの?」

提督「実は……正直、このパート長すぎると思うんだ。タイトル詐欺にも程があるだろ」

最上「め、メタい……」

提督「ということで撤収ー!」

皆「「ええー!」」

提督「正直作者もこのパートこんな長くなるとは思わなかったんだ。許してくれ」モ
グモグ

大鷹「口の中空にしてから喋ってください」

時雨「あはは……」

最上「話自体は続けられそうだけど、本筋から逸れそうだしね」
山城「アンタもメタくなってるわよ」

【12月】

大鷹「……………」パタパタ

提督「……………」キュツキュツ

大鷹「……………」パタパタ

提督「……………」キュツキュツ

大鷹「……………」ガラガラ パンパン

提督「……………」プシュツ キュツキュツ

コンコン

提督「うーい」

大鷹「どうぞ」

ガチャ「失礼します」

曙「クソ提督、窓拭きが終わったわよ」

提督「サンキューボノ。次は各班に分けて床、外掃き、入渠施設、物品整理を頼む。終

わったやつから自室の掃除。んで解散」

提督「それと料理上手な子は間宮のどこに行かせてくれ」

曙「分かったわ。明石さんのところはいいの？」

提督「あそこにはバリっちゃんと淀ちゃん、妖精さんがフルで活動してるから問題な

いよ」

曙「そう…分かったわ。また何かあったら来るわね」ガチャ

大鷹「あ、曙さんちよつと待ってください」

曙「何？」クルッ

大鷹「せつかく来たんですし、少し休憩されては？」

曙「遠慮しとくわ。まだまだやる事あるし」

大鷹「では、お茶だけでもいかがですか？」ニコ

曙「……一杯だけね」

提督「大鷹、俺にも」
大鷹「はいはい」

提督「……………」パラパラパラ

大鷹「……………」ペラッ ペラッ

提督「……………」スッ グシヤグシヤ

大鷹「シユレッダー」ペラッ ペラッ

提督「…はいはい」スタスタ グルグル

コンコンコン

提督「んー」グルグル

大鷹「どうぞ」パタン

ガチャ「失礼するわ」

B i s m a r c k 「提督、ちよつといいかしら」

提督「んお？どしたビス子」

B i s m a r c k 「アイオワを見なかった？探してるんだけど」

提督「アイオワあ？見てねえけど…」

大鷹「呼び出しましょうか？」

B i s m a r c k 「そこままでしなくて大丈夫よ。邪魔したわね」クルツ

提督「ちよい待ち。なんかあつたのか？」

B i s m a r c k 「ん…単純に貸してたゲームを返して欲しいだけよ」

提督「あ…：…そうか。見かけたら伝えとくよ」

大鷹「私も覚えときます」

B i s m a r c k 「D a n k e . 頼んだわ」

提督「ちなみになんてゲーム？」

B i s m a r c k 「風来のシレン2よ」

提督「古っ！」

大鷹「……………」ストツ ストツ

提督「横須賀、佐世保、舞鶴と」ストツ ストツ

大鷹「漫画が多すぎですよ」ストツ ストツ

提督 「いいだろ別に……あれ」 ストツ
提督 「8巻がない……」

コンコン

大鷹 「はーい」

提督 「8巻どこだー？」 ガサガサ

ガチャ 「失礼しまーす」

鈴谷 「提督ー、漫画返しに来たよー」

提督 「んー。……あ？それお前が持ってたのか！おせーぞ返すの！」

鈴谷 「提督がいつでもいいって言ったんじゃん！」

提督 「いや言ったけど……さすがに半年借りっぱはダメだろ！」

鈴谷 「知らないよ！」

大鷹 「お二人共、程々をお願いします」

二人 「「っ……」」

提督 「……分かったよ」

鈴谷 「……りよーかい」

大鷹「よろしい。そういえば鈴谷さん、熊野さんは？」

鈴谷「熊野はモガミン達のところだよ。鈴谷たちの部屋はもう片付いたからね」

大鷹「そうでしたか。：鈴谷さん、熊野さんにこれを渡してもらえますか？」スツ

提督「んだそりゃ？メモ？」

大鷹「はい。以前厨房で一緒にした時に頼まれました。その時のです」

鈴谷「へー……」

提督「大鷹と熊野と一緒に料理：ダメだ全く想像つかん」

鈴谷「鈴谷もだよ……」

大鷹「お願いできますか？」

鈴谷「大丈夫だよ。渡しとくね！」

大鷹「ありがとうございます」

鈴谷「んじゃもういくね！バイバイ！」

提督「おう」

大鷹「また」

提督「……さっきのはなんのメモだったんだ？」トントントン

大鷹「サンドウイツチのメモです」グツグツ

提督「サンドウイツチい？あんなもんパンと具がありや出来るだろうに」トントントン

大鷹「出来る人からしたらそうですけど、できない人からしたらそうもいかないんですよ」グツグツ

提督「ふーん……」パラパラパラ

コンコンコン

提督「あーい」

大鷹「どうぞー」

ガチャ「しつれいしまあゝす」

Polia「いゝい匂いですねえゝ」

提督「その声……ポーラかー？悪いけど今手が離せねえからちよつと待つてくれー」トントントン

P o l a 「はくい」

提督「……………」トントントン

大鷹「……………」コク

提督「どうだ？」トントントン

大鷹「上々です」

提督「うし」パラパラパラ

大鷹「…後はやつときますよ」

提督「頼んだ」コトツ

提督「…んで？どうしたポーラ？」

P o l a 「んーとですねくそのくお酒をく」

提督「ポーラ、前にも言っただろ。ここに酒はない。俺が飲まねえからな」

提督「それを覚えてないお前じゃないだろ？」

P o l a 「えーとおく…」

提督「…フウ。…ザラだろ？」

P o l a 「ピクッ

提督「凶星か。喧嘩ってわけじゃなそうだが……」

P o l a 「……ハイ。実は……」

提督「ザラを飲みの席に誘うだあ？」

P o l a 「ハイ……」

提督「素面で何しに来たのかと思つたら……」

P o l a 「何とかできませんかね……？」

提督「……とりあえず先に理由を聞かせてくれ」

P o l a 「ハイ……。ザラ姉様はいつも宴会の時、P o l a のことを気にかけてくれていて、自分が満足に楽しめていないと思うんです……」

P o l a 「だから、せめて年末ぐらいはP o l a のことを気にかけて欲しくて欲しいな……」

提督「つまりは、たまには自分のことを気にかけて欲しに羽を伸ばして欲しい……と」

P o l a 「ハイ……」

提督（お前が飲み過ぎなきやいいじゃねえか、つていうのは黙つとこう）

提督「そうさなあ……まあ、飲みを誘うのは簡単だろうな。その先だが……」

提督「とりあえずお前はザラがいい感じに酔うまでは飲むな」

P o l a 「ええ……」

提督「文句言わない。……まあ、気持ちいいぐらいに酔ったら後はトントン拍子だろ」

P o l a 「……? なんですかそれえ?」

提督「放つておいても上手いくつてこと。ザラをいかに上手く酔わせるかが鍵だからな。頑張れ」

P o l a 「分かりました。P o l a 頑張りまゝです」

P o l a 「それじゃあ失礼しましたあゝ」バタン

大鷹「……あんなテキトー言つて大丈夫なんですか?」

提督「……まあ大丈夫だろ。確かにザラは少しポーラを気にしすぎるくらいがあるからな。たまには羽を伸ばすのも必要だろ」

大鷹「……まあ、そうですけど」

提督「だろ。……まあ後はポーラへのいい薬になれば御の字かな」ボソツ

大鷹「……?」

Z a r a 「ポオオオラアア……！」 ヒツク
P o l a 「提督にハメられたー！」

カチ コチ カチ コチ

提督 「……………」 ズルズル

大鷹 「……………」 チュルチュル

提督 「……………」 ズルズル

大鷹 「……………」 フウ

大鷹 「……潮さんは？」

提督 「宴会をまとめてる。…神鷹は？」

大鷹 「ドイツ艦の皆さんに連行されてました」

提督 「まったくあいつらは…」

大鷹 「提督は宴会に参加しなくてよかったですか？」

提督 「ああ。俺飲めないから毎回後始末しかやることないし」

提督 「それに今年は潮に任せてくれて言われたからな」

大鷹「なるほど……」

提督「お前こそ行かなくてよかったのか？」

大鷹「私は……」

大鷹「……………」

提督「…………？」

大鷹「年の終わりは、一番大切な人と過ごすって決めてますから……」

提督「……………」

大鷹「いえ……………」

ボーン　ボーン

提督「ん……………」

大鷹「ですね。では、」

提督・大鷹「あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います」